さくら並木

人・まち・地域をつなぐ、にぎわいと支えあいのまちづくり

大河原町長　齋　清志

本町は今年度に入り、半年で100人程の人口増加となりました。仙南にあっては、人口の推移や減らない子どもの数と学力の高さ、さらには高齢者の健康意識の高さなど他の市町とは少し違う状況が生まれています。決して、『我が町だけ良ければ・・・』という発想ではありませんが、ブランド化された選ばれる町を目指すうえでは、大きなチャンスを迎えていると受け止めているところです。

さて、9月上旬から始まった地区の『敬老会』も10月下旬で無事終了となります。開催日が重なり参加できなかったところもありますが、30数地区に伺うことができました。区長はじめ役員等スタッフの皆様にはご苦労をおかけしましたが、招かれた敬老者の皆様のたくさんの笑顔に接し癒された思いで安堵したところです。出席率の高い地区や車イスでも出席できるよう配慮のあった地区など、優しさの溢れた取り組みにも感激させられました。支えあいや助けあいの仕組みづくりのためにも、現場にこそ大切なヒントが隠されていると気づかされた思いです。

また、10月2日には中央公民館のリニューアルとして進めてきた『大河原町にぎわい交流施設』がオープンしました。追加工事でオープンが遅れ皆様にご迷惑をおかけしましたが、中央公民館の機能に加え、観光物産や地域産業の振興を進める事業が同じ施設内で実施されることになります。『生きがいづくり・仕事づくり・観光物産』のつながりにより、多様な分野の人材が集い、連携・交流することで将来に向け地域にぎわいの創出が生まれることを期待しているところです。

さらに、10月21日には秋最大のイベントである、『おおがわらオータムフェスティバル』が秋晴れの下盛大に開催されました。朝から大変な人出となりましたが、たくさんの企画が展開され、ご来場の皆様にはご満足いただけたものと感じております。祭りは魅力さえ維持されていれば、天候に左右されることがあってもマンネリ化とは無縁の存在だと気づいた次第です。会場内にたくさんの会話や歓声が飛び交い、正に人と人が、そしてまちや地域がつながっているように感じられ、有意義な時間に浸らせていただきました。

また、同日まで3日間にわたり開催された国登録有形文化財『佐藤屋邸』の『戊辰戦争と大河原』展も、歴史を訪ねるなかで当時の町の様子や人のつながりに大いに感心が生まれたことでしょう。

本町は仙南の真ん中に位置し、その中心性・拠点性・利便性といったことを活かしながら発展してきた町です。人・まち・地域のつながりを深めながら、本町のためのみならず仙南地域全体のためにもにぎわいの創出に努めるべきだと考えています。小さな町でも大きな役割を担うスーパータウンとして、また選ばれる先進の町としても更なるブランド化に拍車をかけてまいる所存です。

（10月22日記）

学び舎通信

町内小中学校の情報を毎月お届けします

金ケ瀬小学校

金ケ瀬の偉人！松山京子先生物語をオペレッタで!!

昭和24年から49年間、金ケ瀬地区の医師として尽力された松山京子先生。近年、その功績が「みやぎの先人集」や「大河原町の先人集」に取り上げられ、本校でも道徳の時間などで学習するようになりました。保健室には、在りし日の松山先生が子どもたちの健康診断をしている写真が飾ってあり、**そのまなざしは温かく子どもたちを包み込んでいるかのようです。**

10月20日に行われた金小祭では、5年生が創作オペレッタ「松山京子先生物語」を発表しました。台本・歌詞を本校の髙嶋美香教諭が書き、音楽のボランティアで協力をいただいている石塚希先生が作曲して下さいました。子どもたちは、自分たちのイメージしている松山京子先生を、台詞や演技で表現し、日々真剣に練習しました。**松山京子先生の功績は、金ケ瀬地区の伝説となり今も語り継がれています。**

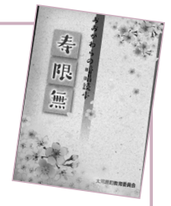
金ケ瀬中学校

金中祭 ～全校生徒の力を結集して～

10月13日の金中祭では授業での取り組みをまとめた展示発表とステージ発表が行われました。ステージでは弁論発表や吹奏楽部の演奏、学年毎の発表などが繰り広げられました。全校合唱では「結ーゆいー」「春に」の2曲が披露されました。今年度はステージに掲げられた全校制作のモザイク画を背景に力強い歌声を響かせました。

来場の保護者、地域の皆様からは大きな拍手、そして励ましの言葉をいただきました。**準備期間中、実行委員を中心に心を一つにして、学年を超えて協力し合ったことは、生徒にとって大きな自信になったことと思います。**

暗唱大好き 大小編



「教室と…図書室と…」

朝に3年生のある教室をのぞいてみると、暗唱の真っ最中。1学期の全校暗唱集会で取り組んだ谷川俊太郎の異なる作品に挑戦し、熱心にも楽しげに声に出して読んでいました。このように、**暗唱に取り組む姿が各学級でたくさん見られます。この光景が大小の伝統になってきたと感じました。**

図書室には、入口脇に10月にリニューアルした『暗唱読本コーナー』があります。図書司書の先生にお伺いしたところ、「担任の先生に、今、暗唱に取り組んでいる作品を尋ねて、作者等に関係する著書を展示しています。そして、数か月毎に展示作品を変えています。**暗唱作品や作者に興味をもった子どもたちが、さらに読書へと深い関わりがもてたら…という思いから始めました」との答えが笑顔と共に返ってきました。**

今後も、学校全体で連携し合って暗唱活動に取り組み、心と頭を鍛えていきます。

駅前図書館今月の新刊　まちの本棚

一般▶ 影の日本史にせまる
嵐山 光三郎・磯田 道史／著　【平凡社】

西行は自ら命を絶ったのか!? 連歌師は“戦争広告代理店”だった!?「芭蕉=忍者」説の真相は!? 和歌と俳諧の“聖人”西行と芭蕉を軸に、平安時代から江戸時代を、タブーを無視して縦横に斬る、異端の日本史談義。

小説▶ 骨を弔う
宇佐美 まこと／著　【小学館】

骨格標本が発掘された、という新聞記事を見つけた豊は、小学生時代、仲間と山中に骨格標本を埋めたことを思い出す。ある確かな手触りから「あれは本当に標本だったのか」との思いを抱き、かつての仲間に会いに行くが…。

児童▶ 人生を変えるアニメ
河出書房新社／編　池澤 春菜ほか／著　【河出書房新社】

人生に必要なことはすべてアニメが教えてくれる！勇気をくれたアニメから、あなたに寄り添うアニメ、人生を熱くするアニメまで、アニメ監督、声優、漫画家など27名が本気ですすめるアニメを紹介する。もっとアニメに出会うための作品ガイドも掲載。

絵本▶ じめんのしたにはなにがある
中川 ひろたか／文　山本 孝／絵　【アリス館】

たからもののミニカーをにわにうめるため、あなをほったぼく。じめんのしたには、きやくさのねがいっぱい。ありのすもあるし、みみずやもぐらもすんでいる。とうみんしているどうぶつたちもいるよ。デパートのちかや、ちかてつのしたには、もしかしたら…。